

さいわい結核通信 2017

結核は昔の病気じゃない

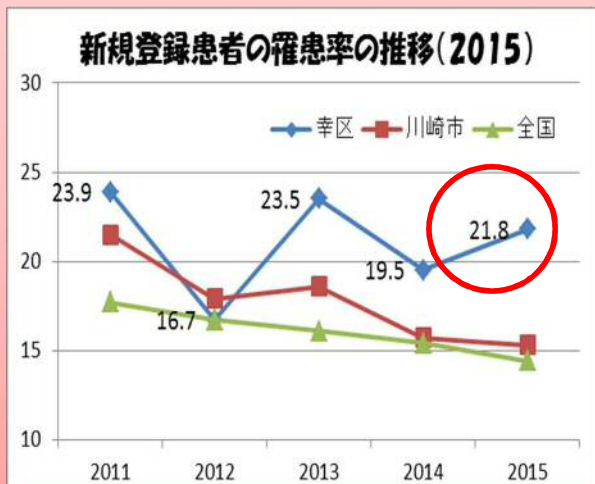
編集・発行
幸区役所保健福祉センター
衛生課
電話 044(556)6682
2017年6月発行

結核が日本の死因第1位だった昭和25年から約60年が経過し、新薬の開発や地域における服薬確認支援(DOTS)等によって結核罹患・死亡者の数は減少しました。しかし一方で結核への認識が薄れ、受診と診断の遅れや重症化してからの発見が生じています。

今後、★昭和25年前後の結核まん延期に感染した方が高齡化や他疾患罹患に伴う免疫力低下で、結核を発病してしまう可能性があります。この結核通信を通じて結核に関心を寄せ、いざというときに備えてください。

統計から見た！幸区の傾向！

2015年、幸区で新たに登録された結核患者（潜在性結核感染症を除く）は**35人**でした。罹患率（人口10万人対）は**21.8**で全国平均、川崎市平均を上回っていて、市内でも結核発生の多い地域です。結核患者の発生は全国的に減少傾向にありますが、幸区では2016年は**35人**の患者が発生しており、人口増加の影響を受けて罹患率自体は**21.3**と微減していますが、患者数は減っていません。幸区では全国の罹患率に比べて依然高い数値が続いており、引き続き一層の結核対策に取り組むことが必要です。また幸区の特徴として前年と比較すると働きざかりの結核患者が減った一方で、高齡での発病が増えていることがわかります。



2015 国内の結核動向

- 新規結核患者●
18,280人
- 罹患率●
14.4 (人口10万対)
- 結核死亡数●
1,955
- 死因順位●
29位

↓

全国で1日に約50人もの新規患者が発生し、約5人が結核で命を落としています。

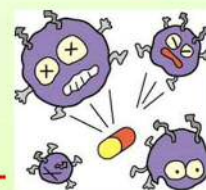


幸区は人口に対する患者数の割合が全国と市全体平均を上回ります。

幸区は未だに結核発生の多い地域です！！

結核の特徴

- 結核菌は自ら動くことができず、ヒトの咳や痰で感染していきます。
- 結核菌が肺の奥底に定着しなければ感染が成立しません。
- 酸素があり、37℃程度の環境を好みます。(ex.肺)
- 感染しただけでは他のヒトに菌を広げることはありません。(←重要)
- ほとんどの結核菌は感染した後、体の中で冬眠に入ります。
- 感染した方の1～2割は早い場合で2～3か月、遅い場合で数年かけて発病に至ることがあるといわれています。
- 結核は一般的な抗菌薬(風邪薬)が効きません。
- 結核を発病しても、痰の中に菌が確認されなければ他者に感染させる恐れは極めて低いと考えられ、日常生活を送りながら治療が可能です。



先手
必勝

施設で出来る結核対策

「結核だからといって何か特別な対策をする必要はありません!!」

- ① 1年に1回、定期健診として **“胸部X線検査”** を受ける。

結核の早期発見及び早期治療、まん延防止のため胸部X線検査を必ず実施ください。定期健診を実施していなかった為に、結核を発症した職員が重症化するまで見逃され、施設調査を行った事例が幸区でもありました。

- ② 日々の **“健康管理”** と **“体調不良時の受診”** を徹底する。

健康管理で結核の発病を抑えるための免疫力を維持すること、又2週間以上咳や痰、食欲不振等の症状があれば医療機関を受診することが重要です。

*** 保健所での結核患者療養支援 ***

幸区役所衛生課では、保健師が医療機関と共に治療中の服薬管理や公費負担申請の手続き、治療終了後2年間の定期検診といった療養支援を行っています。また診断に至るまでの経過等を調査し、接触者に対して健診も適宜実施しております。結核患者が施設で発生した場合は「**あわてず、あせらず、あなどらず**」をモットーに冷静な対応をお願いします。

風邪のようで風邪ではない…そんな時は結核を疑ってください

2週間以上、咳や痰、食欲不振が続いたら…

胸部X線検査

結核が
疑われる場合

喀痰検査
血液検査 など

結核が疑わしい場合 **専門医療機関を受診!**

結核なら保健所へ
ただちに連絡を!



結核に関する御相談等は 幸区役所保健福祉センター衛生課までお願いします。

☎ 044(556)6682 [8:30~17:00] FAX 044(556)6659